



大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」

第2回「Web2.0時代の大学図書館」(北克一先生)のご案内

様々な新しい情報技術と共に普及してきた Web2.0 という概念の中で、大学図書館の果たす役割はどのように変化していくのでしょうか。「電子図書館」「機関リポジトリ」など多様化していくサービス形態とその根幹を成す情報技術を俯瞰しながら、Web と大学図書館に訪れたダイナミックな変化を追っていきたいと思います。

講師から一言：

「機関リポジトリなんてめんどろなことをやらずに、全部 Google にデータを渡してはどうなんだ？」と、大学本部の「偉いさん」から言われたら、あなたはきちんと図書館の事業としての必要性を説明できますか？

講 師：北克一先生 (大阪市立大学) 「Web2.0時代の大学図書館」

日 時：2007年7月15日(日) 13:30-16:30 (受付：13:15-)

会 場：キャンパスプラザ京都 第一会議室

アクセス：<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

主 催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費(1回)：大図研会員は800円 / 非会員は1000円 (参加費は当日、会場でいただきます。)

申込方法：(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)E-mail、(5)懇親会参加の有無

をご記入の上、下記いずれかの方法でお申込み下さい。

・京都支部 Web サイトからのお申込みは

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm> から。

・E-mail でのお申込みは 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) 宛に。

・FAX でのお申込みは 支部委員 呑海沙織 (京都大学医学図書館、075-753-4330) 宛に。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問い合わせください。

[目 次]

大図研京都連続セミナーのご案内	...	1
図書館日和 ～徳島だより～	...	2
続京大図書館史こぼれ話 第十一回	...	3

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

図書館日和 ～徳島だより～

谷岡 愛

新しい名字になって初めての投稿になりますので、改めまして皆様はじめまして。

10年働いた京都・滋賀を離れ、昨年10月に徳島へ転勤いたしました。現在は、日亜化学工業などの青色LEDで発展中の阿南市にある、阿南工業高等専門学校で勤務しております。学校全体合わせても全教職員が約100名で、15歳から20歳までの学生約800名が学び、ロボットコンテスト、デザインコンテストといったものづくりや、最近ではキャリア支援に力を入れている学校です。図書館は、事務系の係長1名と私(司書1名)の2名と夜間アルバイトで、所蔵が約8万冊。小さいところならではの、ということでは、一人でも目が行き届くちょうどよいサイズで、自分が選書した

本が借りられる瞬間に立ち会えるのが、ちょっとしたヨロコビです(もちろん一人であるがゆえに、目録入力などアヤジイ点が多々あるのですが・・・)。

徳島というと、自分の中では“阿波踊り・すだち・鳴門の渦潮”といったイメージしかなく、実際に京都から徳島に移り住んでみて、町に人が少ない、店が少ない、「電車ではなく汽車」である(正確には「気動車」というらしいのですが・・・)等々の衝撃はあったのですが、いざ住んでみると、これが意外と「その地方ならではの愉しみ」があって、おもしろいのです。その一つ、徳島には、旧暦の春の節句に、子どもたちが野山に下げてゆく、手提げ弁当箱には「遊山箱(ゆさんばこ)」(*1)という名前がついています。他の地方にも似たようなものがなくはないのですが、このように特別な名前がついているものはないようです。最近これにはまりまして、関連記事のコピーを求め、国立国会図書館に初めて私費でILLを申し込みしました。申し込むこと数日後、NDLからお電話があり、カラーページがあるが、カラーコピーするかとのお問い合わせ。取り扱う件数が多いだろうに、わざわざ確認のお電話をいただき、ちょっと感激でした。

さて徳島の図書館は、というと、私が時々利用する徳島市立図書館(*2)はスペースがせまく、書架から本があふれかえり、席数は少なく・・・という悪条件ながら、ネット予約やネット利用申請ができ、リサイクル本提供コーナーや買ったてほやほやコーナー(旧:あなたが一番初めての読者ですよコーナー)設置など、がんばっている感じがあって、ちょっと泣けます(県立図書館はリッパなのですが、車がないと少々アクセス不便なのです)。

また徳島の書店は、徳島駅前に、紀伊國屋書店もありますが、私がよく使うのは小山助学館。さほど大きくはないですが、郷土出版コーナーがあり、偶然かもしれませんが、行く度にカウンターで誰かしら「この本を探して欲しい」と来ていて(私も一度お世話になりました)、しっかり調べて対応してくれるという印象でした。書店員といえば、先頃「本のメルマガ」というメールマガジンの「ユートピアの探求」というコラム(*3)にて、とある書店員のたたずまいが紹介されていました。多忙にもかかわらず一人の購入者に尽くす書店員の姿に、知人にもかかわらず、声をかけられなかった筆者。接客・書棚作りにおいて一流であり、なにより書店という空間を熱愛していたその書店員は、「書店員は学者ではないから、学問について深く知らないのは仕方がない」という人が業界にはいるが、だから知らなくてもいいわけではなく、知らないことを誰に聞けばいいか、何で調べるのがわかるのか、押さえておくことが重要」と主張されていたとのこと。出版人である筆者は、これは出版人にもあてはまる、と記していましたが、図書館員にも通じるなあと思いながら読ませていただきました。

徳島には支部がないとのことで、引き続き徳島より京都支部に入っている次第ですが、司書 1 人の身ですので、また今後とも情報交換などさせていただければ幸いです。

*1)

- ・「遊山箱:節句の弁当箱 / 三宅正弘著」徳島新聞社, 2006. 12
- ・遊山箱倶楽部 <http://yusanbako.jf.land.to/>

*2)

- ・徳島市立図書館 <http://www.city.tokushima.tokushima.jp/toshokan/index.html>

*3)

- ・「ユートピアの探求/五月」
[本] のメルマガ【vol. 280】2007. 3. 25 <http://honmaga.net/>

たにおか あい (阿南工業高等専門学校図書館)

統京大図書館史こぼれ話 第十一回

京大草創期、図書館を巡って起った対立事件 その 8

廣庭 基介

ここまで見てきたとおり、明治 33 年 3 月から同 34 年 3 月まで、法科五教授の関西文庫協会に対する積極的な協力の実体と、一転して明治 35 年 7 月には、同五教授達が図書館と館長の図書館運営方針を批判・非難した事実、さらに、明治 36 年 12 月には五教授の一人・岡松参太郎が、わが国最初の印刷冊子体洋書目録となった『京都帝国大学法科大学欧文図書目録』の序文において、島館長、秋間司書などの勤務振りを評価し、褒めたことがあったのですが、ここにもう一つ、岡松と島の間、法科教授と図書館長という関係とは別の間柄があったらしいことを示す文書が公刊されています。

それは岡松が明治 31 年 7 月 7 日に、ドイツのハレから木下総長に宛て発信した書簡の中に次のような文言があるからです。

「(前略) 私共ノ最モ心配致居候ハ図書館ニテ之ニシテ整備セサレバ授業ニモ差支可クト存候間此点ハ充分ノ御盡力奉迎候過日私旧友文学士島文次郎京都大学ヨリ図書館設備ニ関スル取調ヲ命セラレ候赴ニテ之ニ関スル書ノ送致ヲ依頼シ来リ直ニ相当ナル書籍送付致置候私モ元来図書館好ニ候ヘハ伯林滞在中モ之ニ関スルコトハ聊自ラ取調今春旅行中モ各地図書館視察致シ・・・(後略)

ここにある「私旧友文学士島文次郎」という語句を見て、筆者は岡松と島との間に旧友と呼べる接点があったとすれば、どのような時期の旧友なのだろうか、とインターネットで「岡松」を検索して見たところ、二人は同じ明治 4 年 (1871 年) の、岡松が 9 月 9 日、島が 10 月 6 日生まれで、同じ明治 20 年 (1887 年) に東京尋常中学校を卒業、同時に大学予備門 (後の第一高等学校) に入学、明治 26 年 (1893 年) 岡松は東京大学法科大学、島は東京大学文科大学に入学していますので、二人は中学校と大学予備門での同級生であったことが十分考えられるのです。

旧友であることを言明しながら、その旧友さえも図書館長に適任でないとして断じて更迭を要求し、しかも短時日の後に、同じ相手の労をねぎらったり称揚したりする岡松を筆頭とする法科大学五教授は、あまりにも身勝手な、相手の気持ちや立場を忖度出来ない、駄々っ子乃至幼児性の持ち主である、と評価することは簡単ですが、どうも、筆者としては、いくらなんでもそんな安直な解釈では真実を見間違っているのではなかろうか、と考えざるを得ません。

法科大学の学問分野の性格から考えて、公私の峻別についての欧米の常識を最も早く学んだことが、彼等のそのような、他分野の教授達より一歩も二歩も先んじた是は是とし、非は非とする思考・

行動となったものと解することが妥当なのかも知れません。評価すべき点は適正に評価し、批判すべき点は適正に批判する。私的には友人であっても、公的に落ち度があれば、ナアナアでは済まさない。これこそが近代の学徒の理性ある態度である、と。

法科大学五教授の書記官更迭要求

近代的な公私の峻別ということを前章で類推しましたが、まさにそのことを裏付けるような事例が、法科五教授と京大事務局のトップである書記官の間で起こっておりました。前述の通り、法科大学五教授は木下初代総長に島文次郎初代図書館長の更迭を要求する意見書を提出しましたが、同じ意見書の中で、書記官の更迭と、理工科大学長の勤務態様の改善を要求し、さらに、明治33年(1900年)から教職員の自発的な創意によって開始されていた全学運動会の会費とあり方に関する批判と改善の要求にも言及しておりました。大学図書館とは直接の関係がありませんが、ここに出てくる書記官の妹が法科大学の一教官と結婚したことを知ると、全くの無関係とも云えないので、簡単に触れておきます。

例の「批判書」については、本稿第2回(2006年2月15日号)において、直接図書館に触れる部分を摘出して記載しましたが、ここでは書記官に対する批判の部分を摘出して紹介します。

前文(略)、第一、第二項(略)(廣庭注:前文は本稿第2回[本誌第242号]を参照のこと)

第三項:中央政府トノ聯絡ヲ欠キ意思疎通セス計画疎漫ニ流レテ信用ヲ失ヒ為メニ主張多クハ行ハレス施設常ニ挫折スルノ患アルコト

故ニ総長、書記官、学長等ハ機ヲ誤ラス東京ニ出張シ京都帝国大学ノ利益ヲ計ル可ク又施設ヲ為スニ当テハ豫メ精確ノ方案ヲ立テ其主張ヲ強硬ニシ輕侮ヲ受クルコトナキヲ期ス可シ

第四項:内部の事務徒ニ形式ヲ尚ヒ繁文縟礼ニ流レ秘密ヲ要セサル事件ヲモ秘密ニシ事務渋滞ノ跡アルコト

故ニ百事手續ヲ簡略シ且必要已ム可カラサルモノト外文書ノ往復ヲ廢ス可ク又鎖末ノ事件ニ権限ノ有無ヲ争ヒ事務ヲ推護スルノ弊ヲ矯ム可ク又留学生選定ノ如キ各分科大学ノ施設ト相関スル事件ハ之ヲ評議会ニ付シテ後先ヲ定ムルノ方針ヲ取ル可シ

第五項:総長小節ヲ顧ミス書記官ニ委任スルノ跡アルニ拘ラス書記官事務ノ材ナク補助ノ任ニ堪ヘス之力ヲ為メニ統一ヲ欽キ事務散乱ノ弊アルコト

故ニ書記官ハ速ニ之ヲ罷免シ更ニ適任者ヲ以テ之に充ツ可シ

第六項以下(略)

(つづく)

ひろにわ もとすけ(元京大図書館員)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2006年度(大図研会計年度2006.07 - 2007.06)に入っておりますので、2006年度の会費の納入をお願い致します。また、2005年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000(大図研会費:¥5,000+京都支部会費:¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部(dtck@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の大綱浩一 まで。